

旧北海道拓殖銀行小樽支店

2017 年、旧北海道拓殖銀行小樽支店に似鳥美術館が開設されました。この拓殖銀行の支店は小樽の経済的繁栄の絶頂期であった 1923 年に建てられ、同年、小樽運河が完成しました。当時、北海道最大級の建物の 1 つに数えられており、地上 4 階のフロアに銀行と貸事務所が、地下には金庫室がありました。

北海道拓殖銀行は小樽の経済力が衰退した 1969 年に移転し、1989 年にホテルとして再オープンするときまでもぬけの殻となっていました。美術館に生まれ変わるまでこの建物の所有者は何度も変わりました。地上 4 階のフロアと地下には、およそ 300 の芸術作品が展示されています。所蔵作品は、横山大観（1868 年–1958 年）や川合玉堂（1873 年–1957 年）の近代日本絵画（「日本画」）や、岸田劉生（1891 年–1929 年）の洋画など、小樽が繁栄の絶頂にあったときに活躍していた芸術家の作品が主です。地下は特別展のために使用されています。

1 階の旧営業室は 6 本の古典的なグレコ様式の柱に支えられた開放的な大空間です。大理石が敷き詰められた床には港町としての小樽の歴史を表すモチーフがちりばめられています。この装飾的な床は 1989 年に造られたもので、当時この建物はホテルでした。現在も、1 階には、1915 年にルイス・コンフォート・ティファニー（1848 年–1933 年）がニュージャージーのセント・ジョンズ・エписコパル教会のために作製し、1990 年代にこの教会が閉鎖されたときに回収されたステンドグラス窓のコレクションが展示されています。ティファニーが自身のガラス製品の中で捉えた乳光効果を感じられるよう、窓は後ろからライトで照らされています。